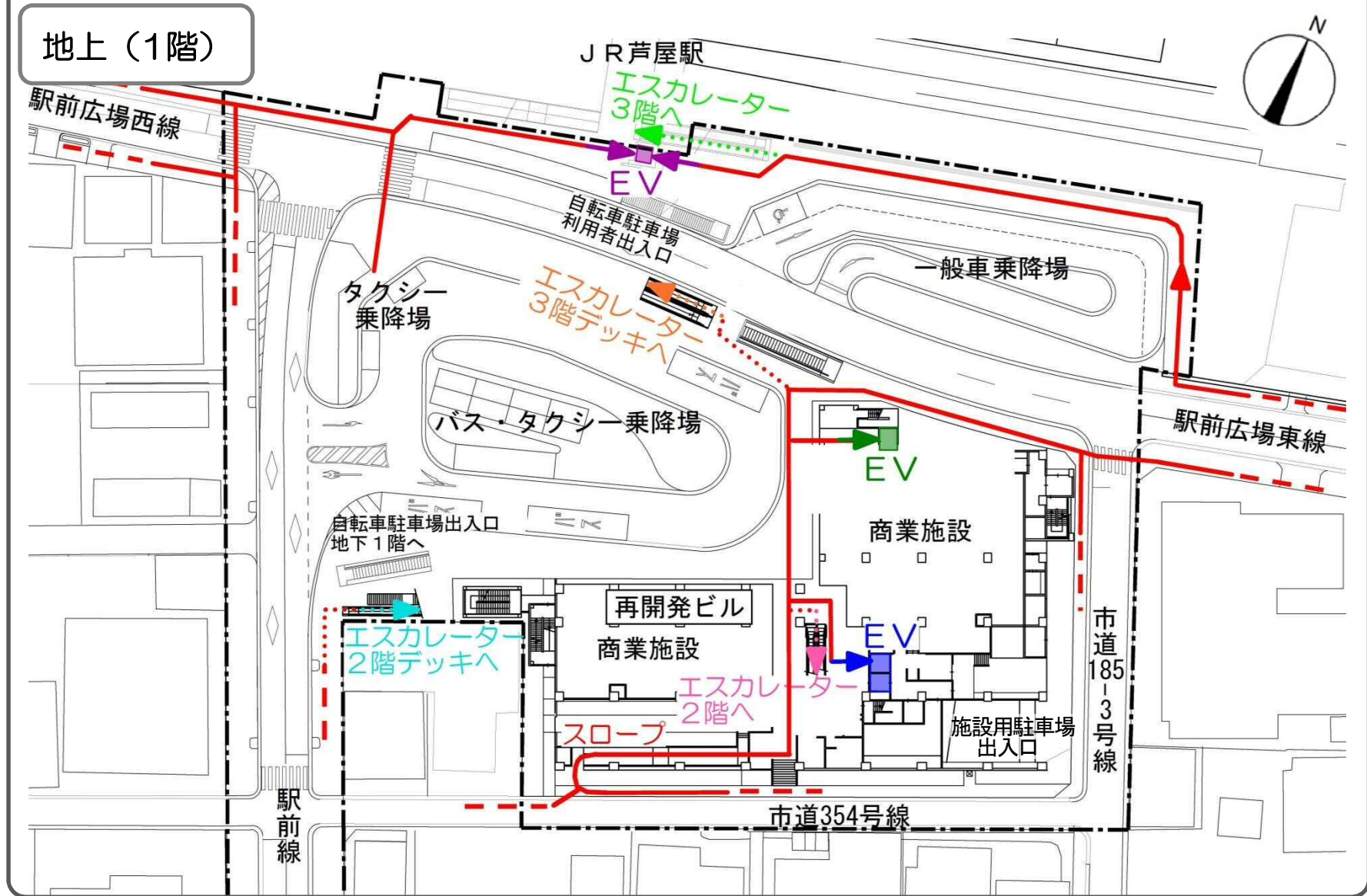
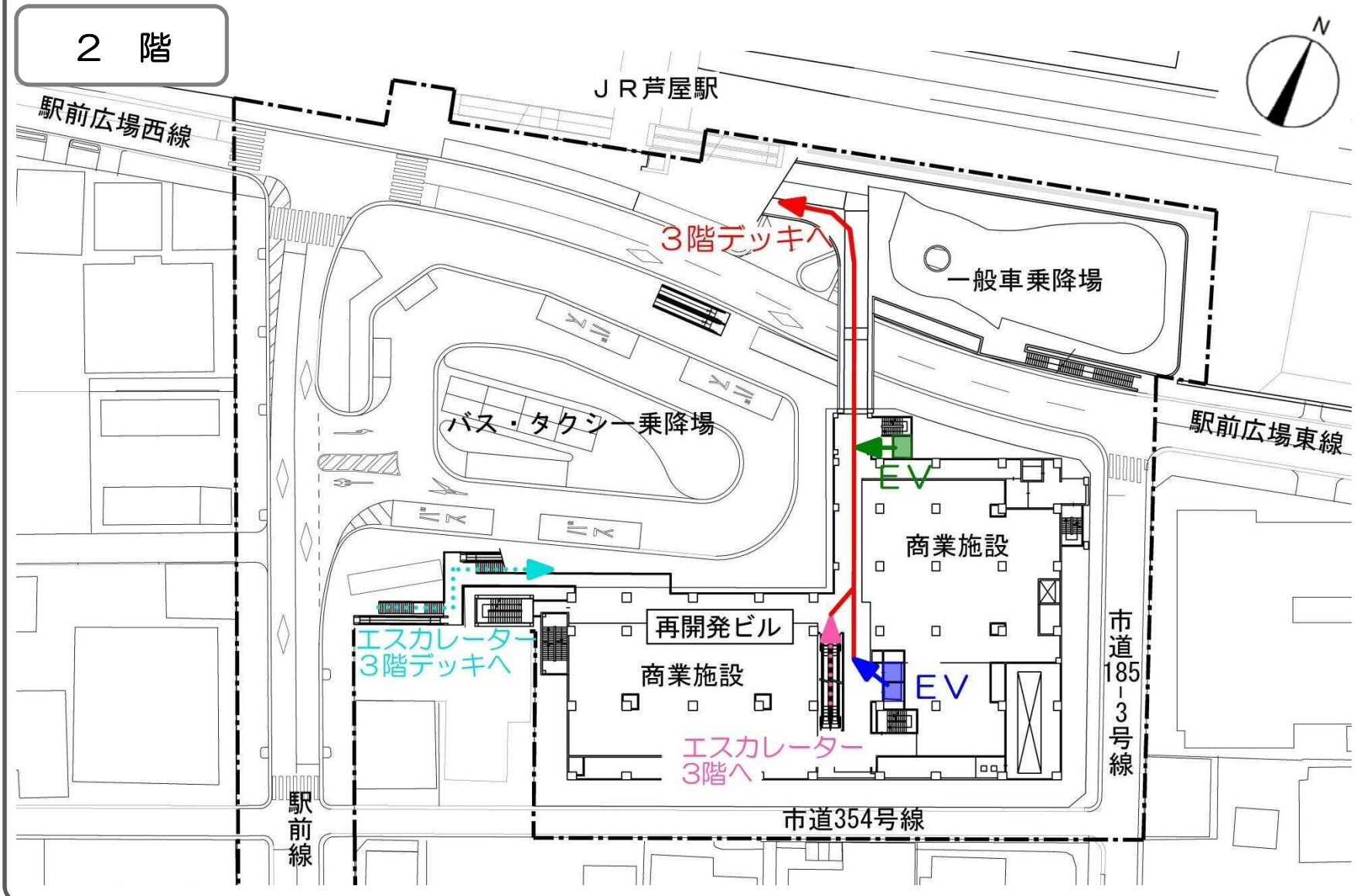


バリアフリー計画



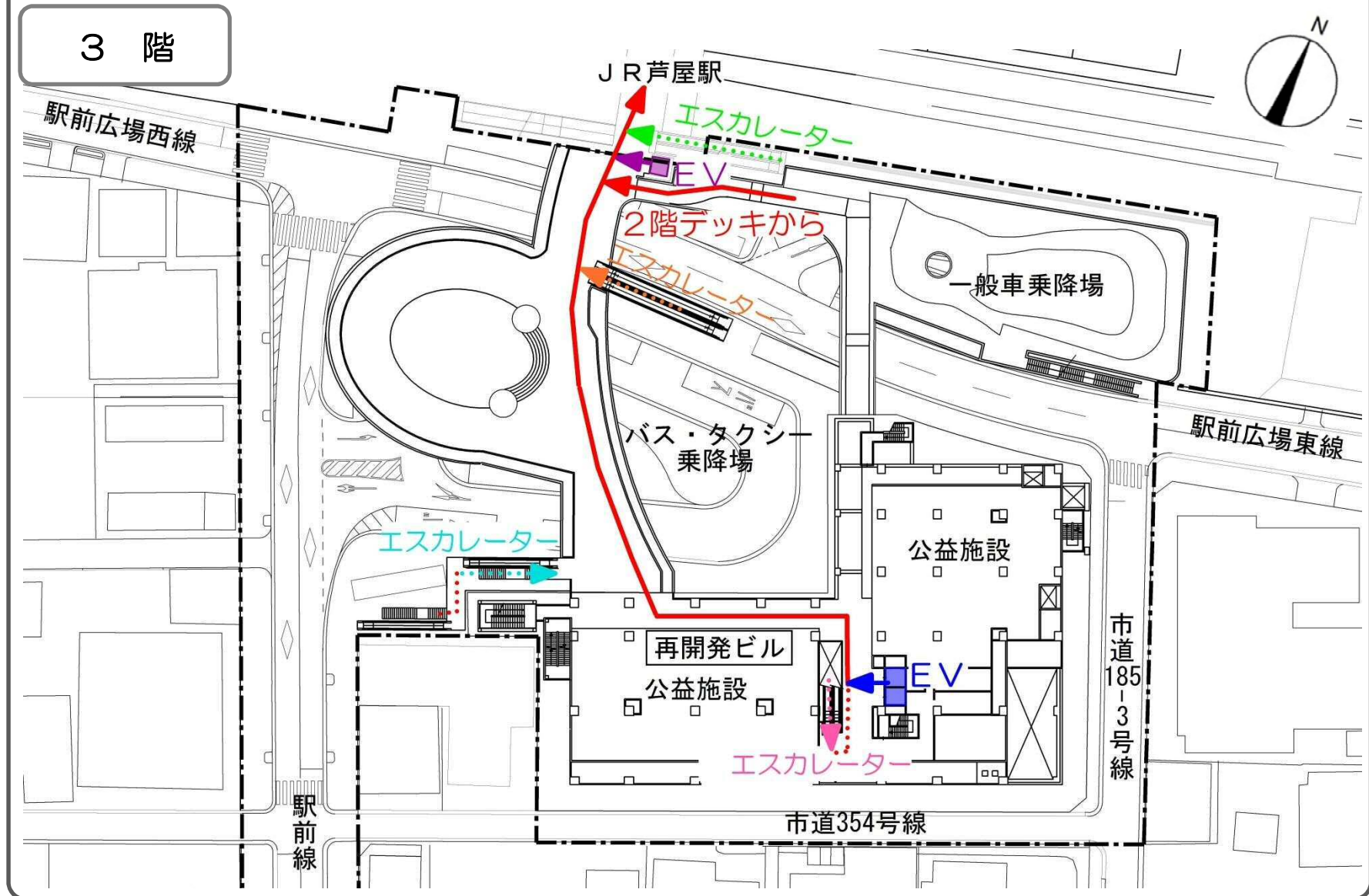
バリアフリー計画

2 階



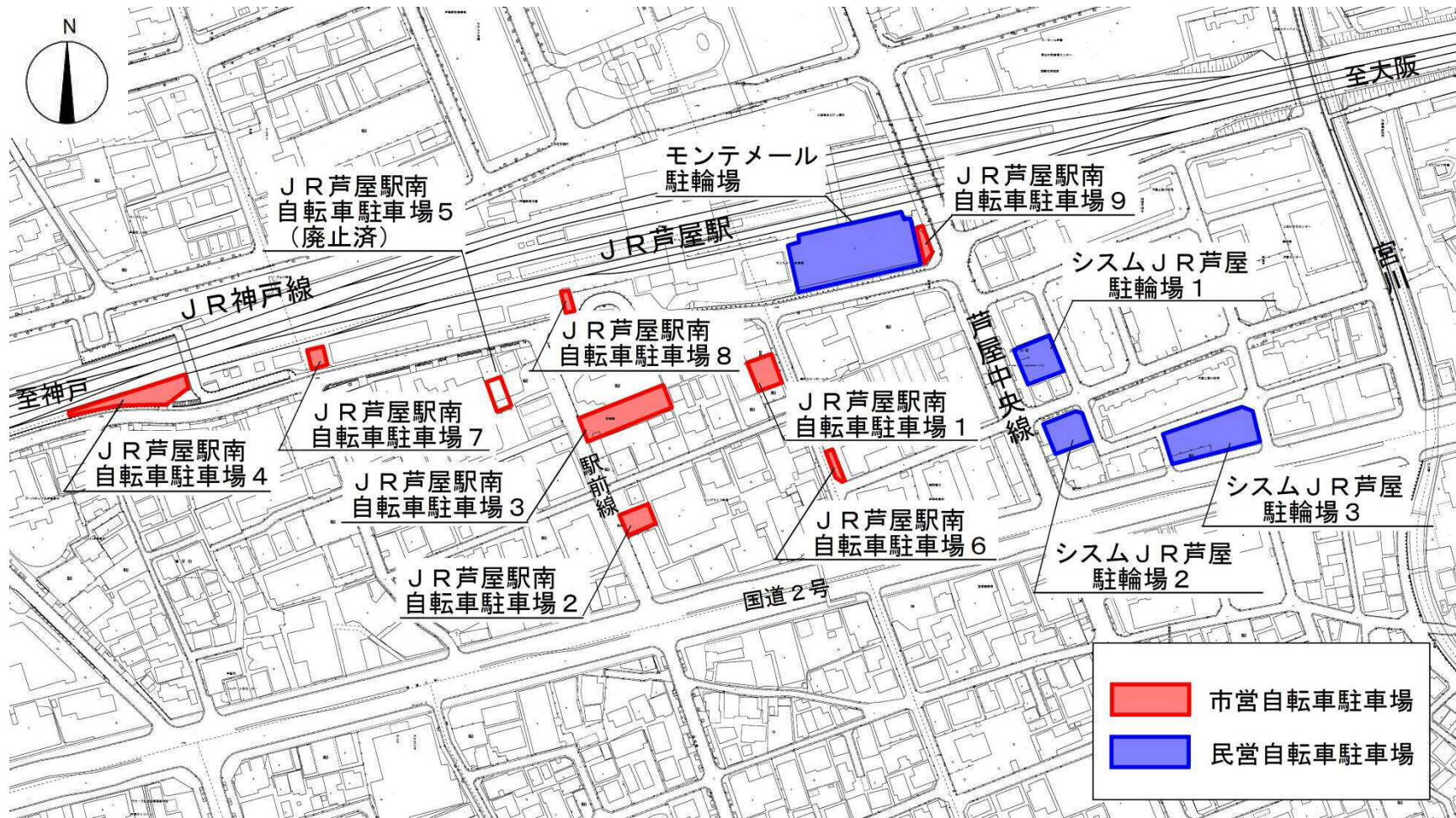
バリアフリー計画

3 階



自転車駐車場

地区周辺における自転車駐車場の現状



※ 「JR芦屋駅南自転車駐車場5」は、平成27年11月に廃止。
「JR芦屋駅南自転車駐車場7」及び「JR芦屋駅南自転車駐車場8」は令和元年9月30日に廃止します。

自転車駐車場

地区周辺における自転車駐車場の現状

(平成30年11月時点)

			自転車(台) (収容台数)	原動機付自転車(台) (収容台数)	
市 営	JR芦屋駅南自転車駐車場1	定期	91	50	
	JR芦屋駅南自転車駐車場2	定期	178	—	
	JR芦屋駅南自転車駐車場3	定期・一時利用	348	43	
	JR芦屋駅南自転車駐車場4	定期	—	73	
	JR芦屋駅南自転車駐車場6	定期	67	20	
	JR芦屋駅南自転車駐車場7	定期	—	19	
	JR芦屋駅南自転車駐車場8	定期	33	—	
	JR芦屋駅南自転車駐車場9	定期	24	—	
	小計			741	205
民 営	シスムJR芦屋駐輪場1	一時利用	350	—	
	シスムJR芦屋駐輪場2	定期	328	—	
	シスムJR芦屋駐輪場3	定期	585	—	
	小計			1,263	—
	モンテメール駐輪場	定期・一時利用	370	90	
合計			2,374	295	

自転車駐車場

自転車駐車場の整備計画の考え方

平成26年度に利用実態調査を行い、下記の手順で自転車の需要予測台数（カッコ内は、原動機付自転車台数）を算定し、新たに整備をする自転車駐車場の収容計画台数を定めています。

収容台数

自転車駐車場の収容台数は、2,479台（311台）あります。
調査時点から自転車駐車場の廃止や収容台数の増減があったため、現在の収容台数は2,374台（295台）です。

利用台数

実際に利用されている台数は、1,793台（190台）あり、収容台数に対する割合は72%（61%）です。

需要予測台数

地区周辺の自転車駐車場の利用状況や、将来人口推計に基づき算定した需要予測台数は、1,966台（213台）です。
自転車利用需要量を基に、駅への自転車利用が想定される範囲や、将来の世代別人口を考慮し、需要台数を予測しています。

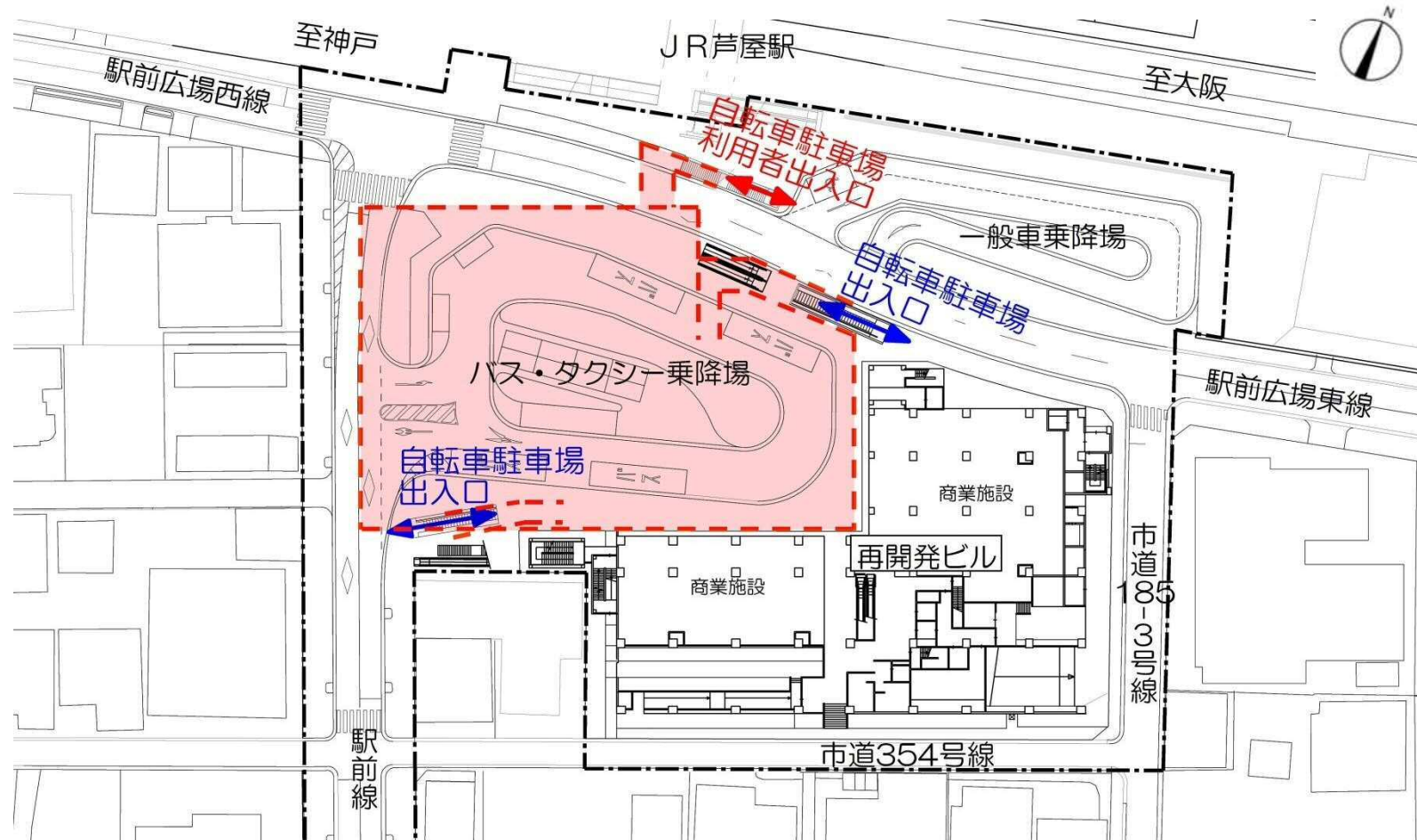
整備必要台数

需要予測台数からモンテメール駐輪場の収容台数370台（90台）を控除した1,596台（123台）を整備必要台数としています。

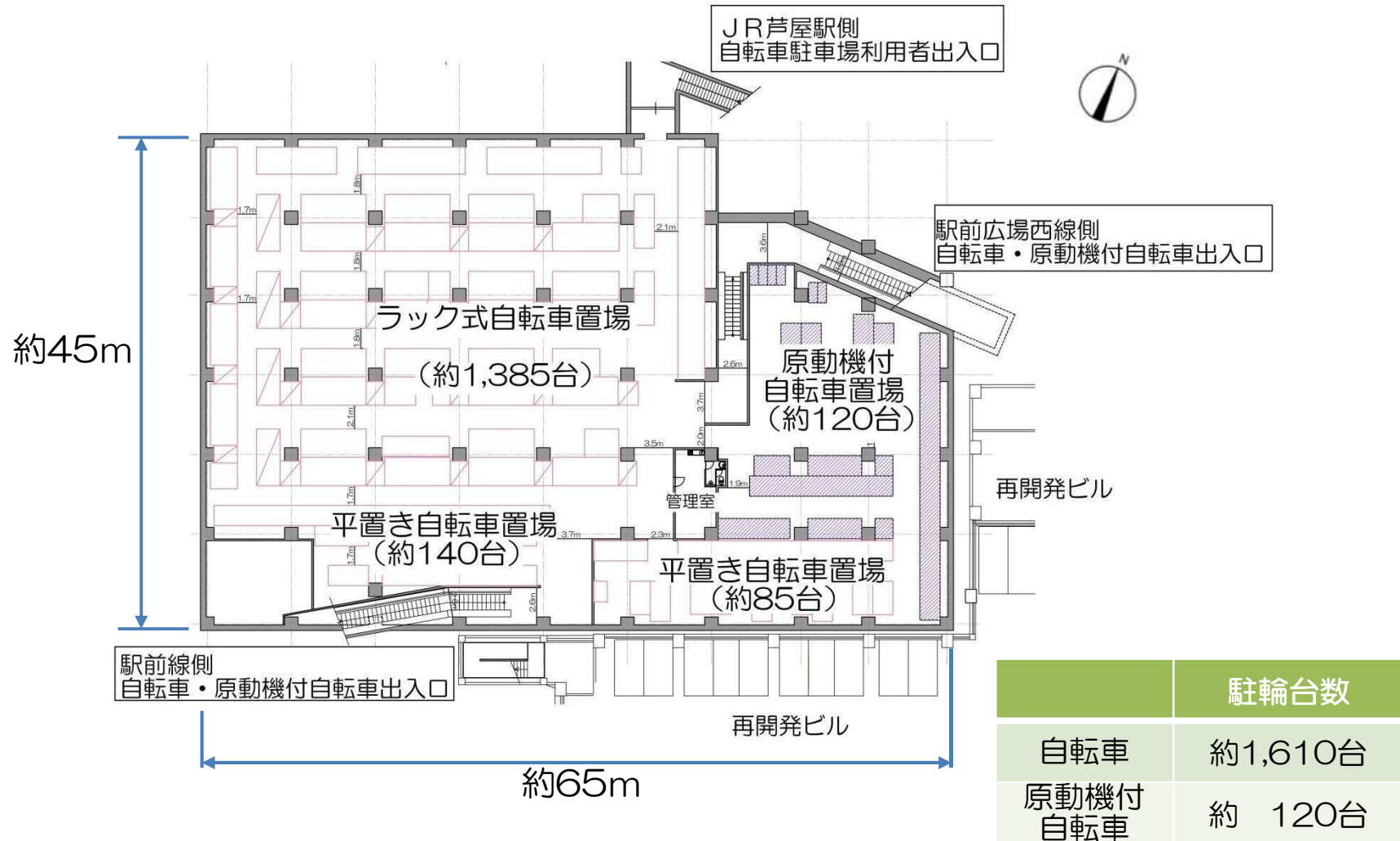
計画台数

整備必要台数から計画台数は、**約1,610台（約120台）**とし、自転車置場については、需要実態を考慮し、平置きを約225台、ラック式を約1,385台としています。

自転車駐車場（交通広場地下）



自転車駐車場（交通広場地下）

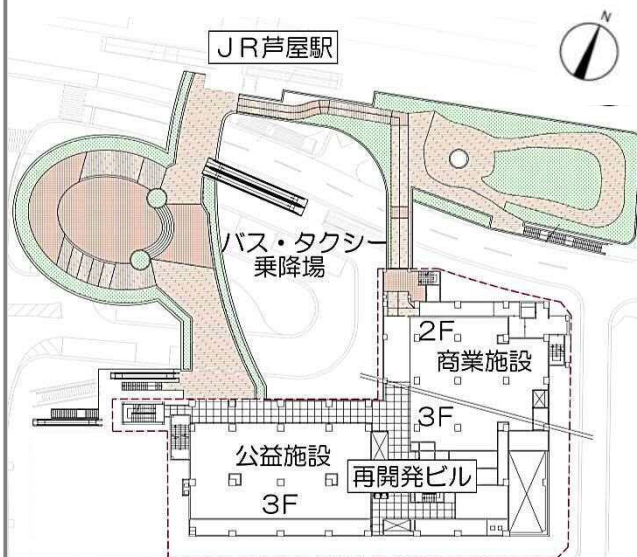


ペDESTリアンデッキ

整備方針

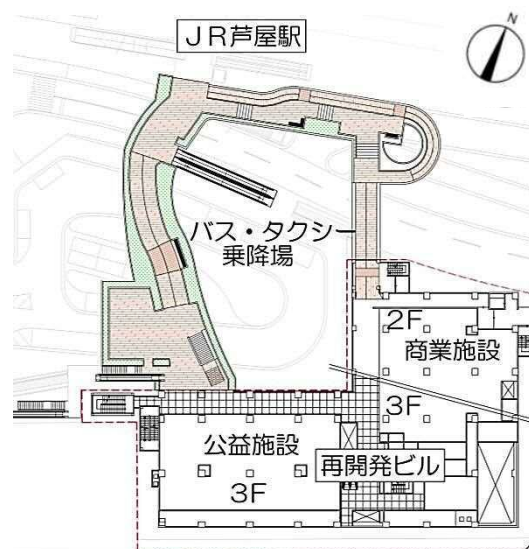
- 安全性・快適性の向上
 - 利便性・回遊性の向上
 - ふれあいと安らぎ空間の演出
- ・ 歩行者と通行車両とを分離し、安全・安心な歩行者動線を確保
 - ・ 駅と再開発ビル、周辺施設を結ぶ回遊動線としてスムーズな人の流れを創出
 - ・ 駅前のほっと一息つける居場所を確保し、心地よさを感じさせる場を創出

A案 広場を中心とした賑わいや安らぎの空間を創出



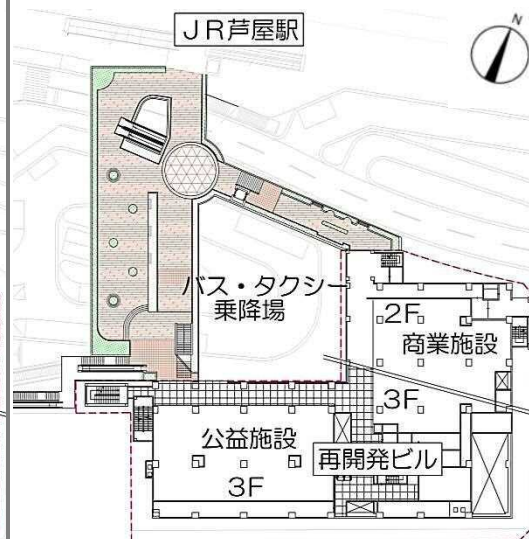
東西それぞれの通路の動線上に大きな溜り空間東側約700㎡、西側約650㎡を計画

B案 再開発ビルと一体となった開放的な空間



再開発ビル側に溜りの空間約160㎡を計画

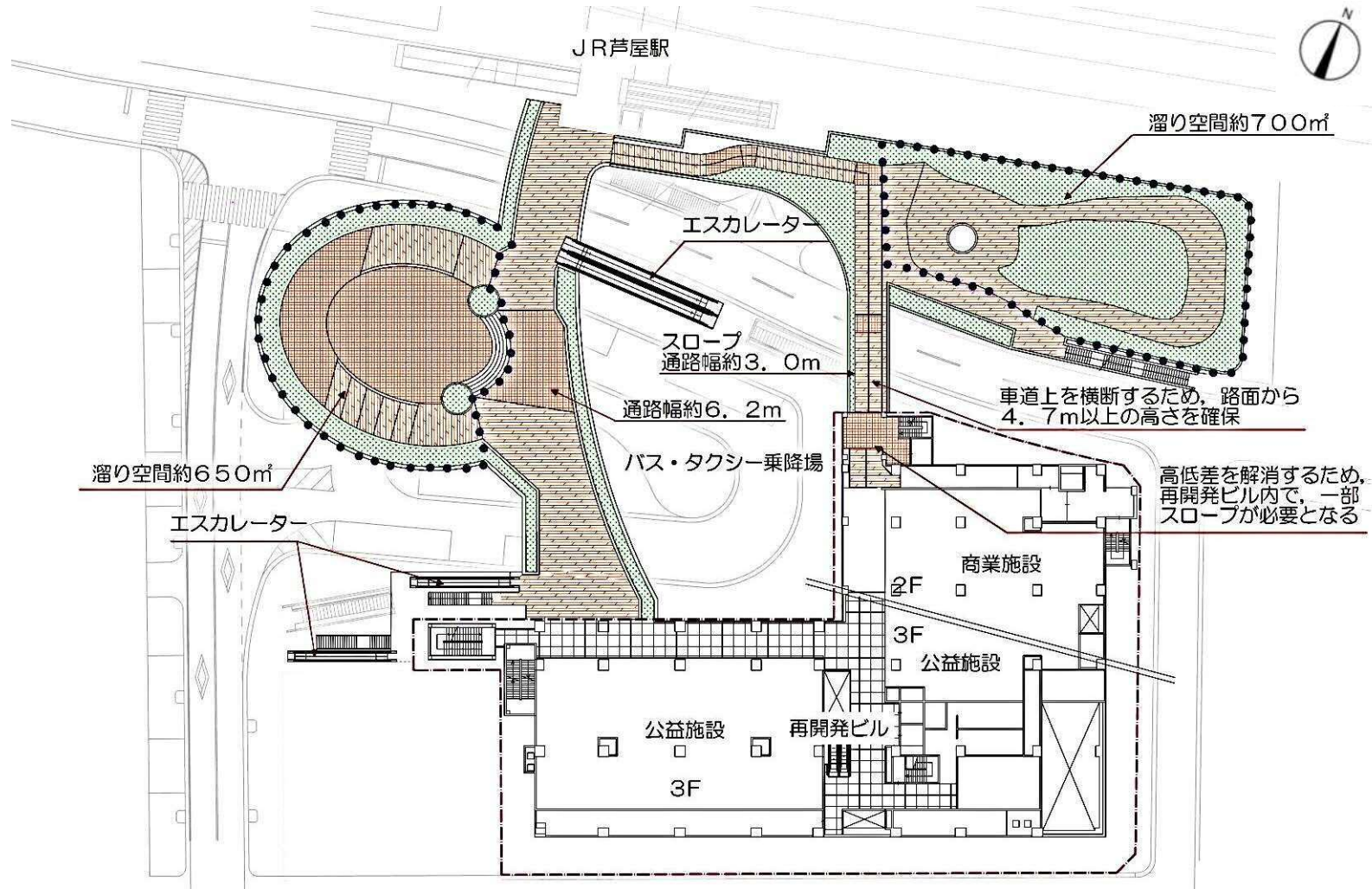
C案 再開発ビルと駅をつなぐ、シンプルで機能的なデザイン



南北の動線と一体的に溜りの空間約400㎡を計画

ペDESTリアンデッキ

A案 東西それぞれの通路の動線上に大きな溜り空間を計画



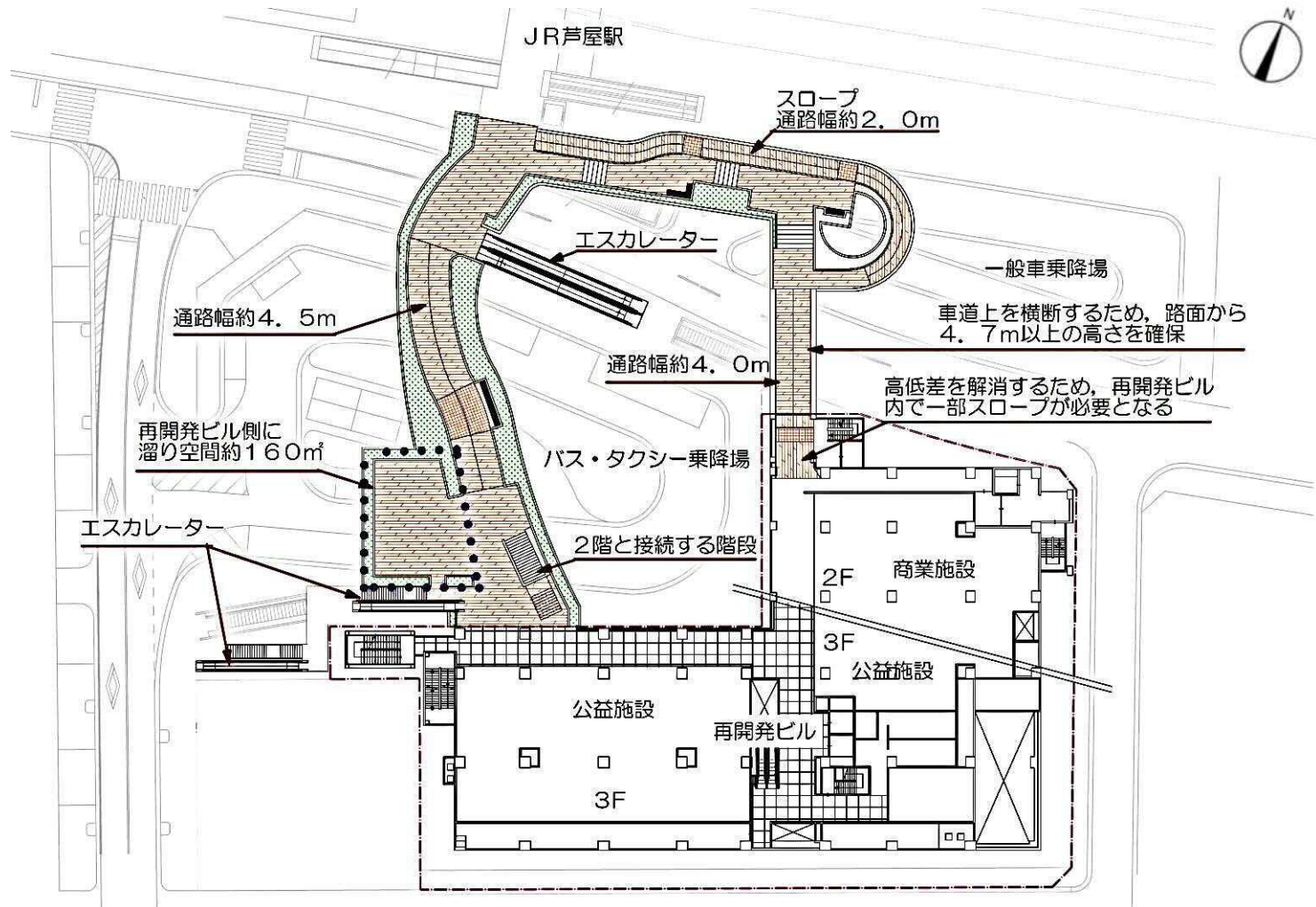
ペDESTリアンデッキ

A案のペDESTリアンデッキを配置した模型



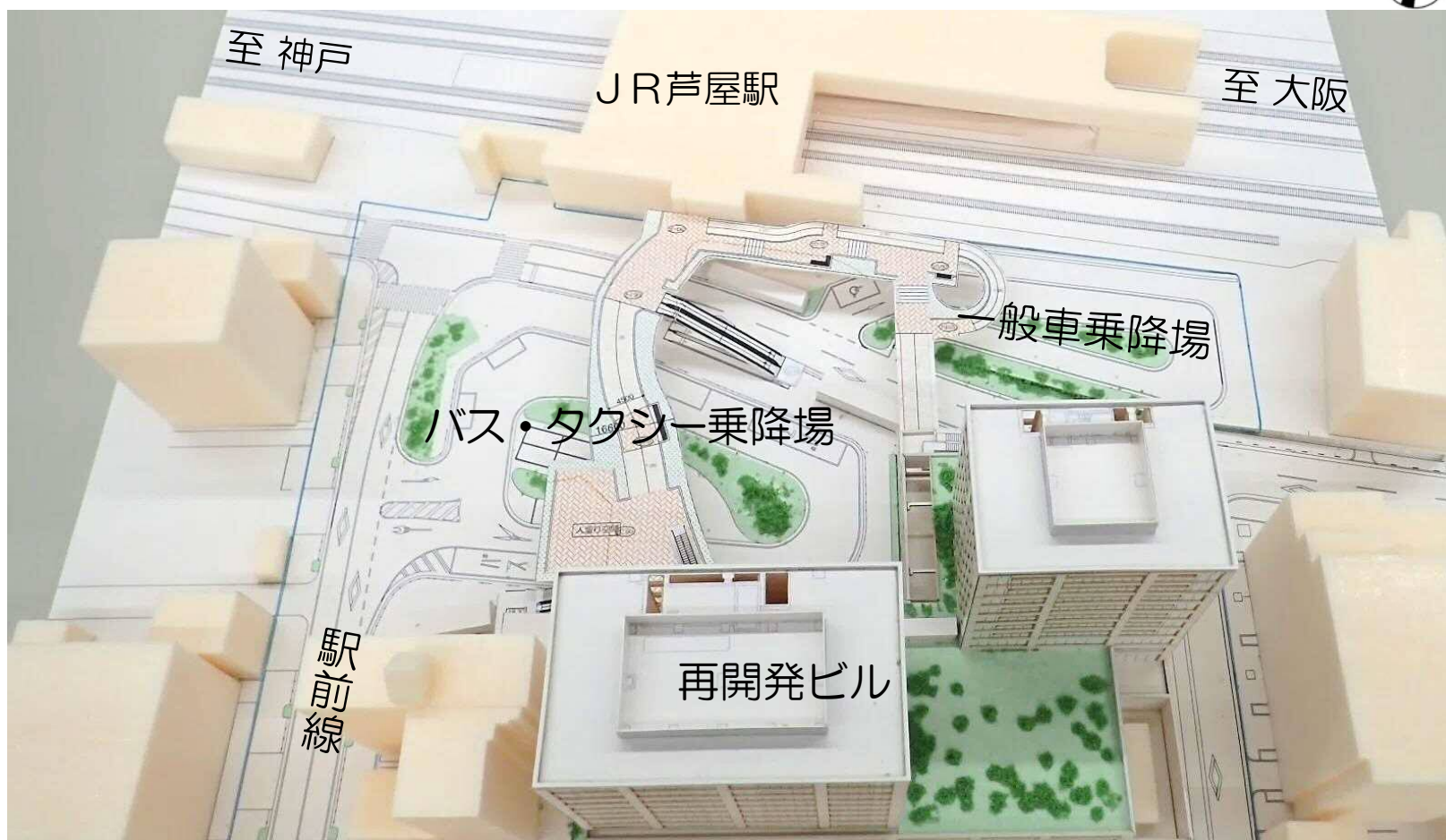
ペDESTリアンデッキ

B案 再開発ビル側に溜りの空間を計画



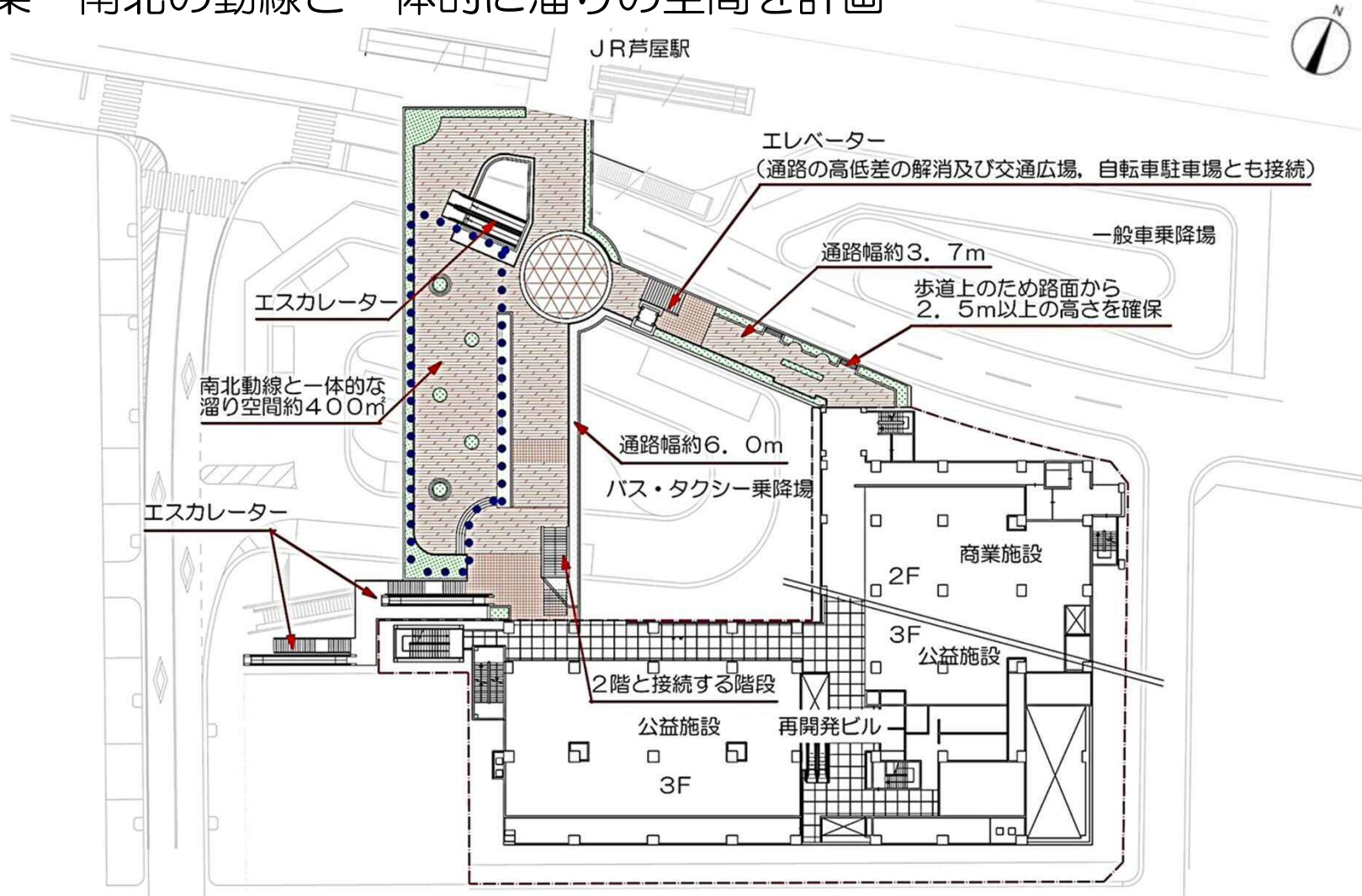
ペDESTリアンデッキ

B案のペDESTリアンデッキを配置した模型



ペDESTリアンデッキ

C案 南北の動線と一体的に溜りの空間を計画



ペDESTリアンデッキ

C案のペDESTリアンデッキを配置した模型

